

平成 21 年 7 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 21 年 7 月 30 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9816

今月のトピックス

- 新型インフルエンザが市内で 246 例報告されました(7 月 30 日 13 時現在)。
- 腸管出血性大腸菌感染症が増えています。レバーや牛肉の生食に気をつけましょう。
- 手足口病、ヘルパンギーナといった夏の感染症が増えてきました。
- 伝染性紅斑が過去 5 年間で最も高い水準でしたが、落ち着いてきました。

平成 21 年 6 月 22 日から 7 月 26 日(平成 21 年第 26 週から第 30 週)まで。ただし、性感染症については平成 21 年 6 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

全数把握の対象

1 **新型インフルエンザ**: 市内 1 例目の発生が 6 月 6 日にあり、7 月 16 日まで全数調査を行いました。横浜市衛生研究所で、7 月 16 日の検体まで延べ 1079 件の検査を行いました。内訳は 240 件が s/wAH1(新型インフルエンザ)、4 件が AH1(ソ連型)、111 件が AH3(香港型)でした。その後、7 月 30 日昼までに、更に 8 件検査を行い、内 6 件が新型でした。市内では、迅速診断キット A(+)に占める新型インフルエンザの割合が高くなっています。国内の患者数は、7 月 30 日現在 5,022 人です。全世界の患者数は、7 月 30 日現在 175,785 人で、内 1,116 人が死亡していますが、今のところ市内では重症例は見られていません。今後、重症者情報(入院情報)、集団発生情報(クラスター情報)、病原体情報に注意が必要です。

横浜市新型インフルエンザ関連情報

<http://www.city.yokohama.jp/me/anzen/kikikanri/influenza/>

2 **腸管出血性大腸菌感染症**: 7 月の報告数は、29 日現在で 29 例と増加しています。血清型の内訳は O157 が 28 例で、その内 1 例に O165 が重複感染していました。O26 が 1 例でした。3 歳から 73 歳まで幅広い年齢層で見られ、判明した感染経路は、焼肉店でのレバー刺、牛肉の生食等でした。例年夏に多く見られますので、この時期は、特にレバーは火を通して食し、家庭では、食材の取り扱いに注意し、手洗い、調理器具の洗浄、生肉は、中心温度 75 度以上で 1 分間以上加熱するなど心がけましょう。

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

3 **細菌性赤痢**: ゾンネが 1 例見られました。渡航歴はありません。

4 **麻疹**: 7 月は 29 日現在で 8 例の報告が見られました。うち 3 例は同一家族の感染でした。予防接種歴は、3 例に接種歴がありましたが、1 回だけの接種でした。2 例は接種歴不明で、3 例は接種歴が無く、その内の 2 例は罹患歴がありました。平成 19 年より麻疹の定期予防接種は 2 回となっています。今後、予防接種の徹底が望まれます。

麻疹に関する特定感染症予防指針

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/09/dl/s0903-8l.pdf>

(日本は、2008 年～2012 年の 5 年間で、麻疹排除を目指します)

麻疹・風しんは全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握しています。
1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底
5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

国立感染症研究所ホームページ

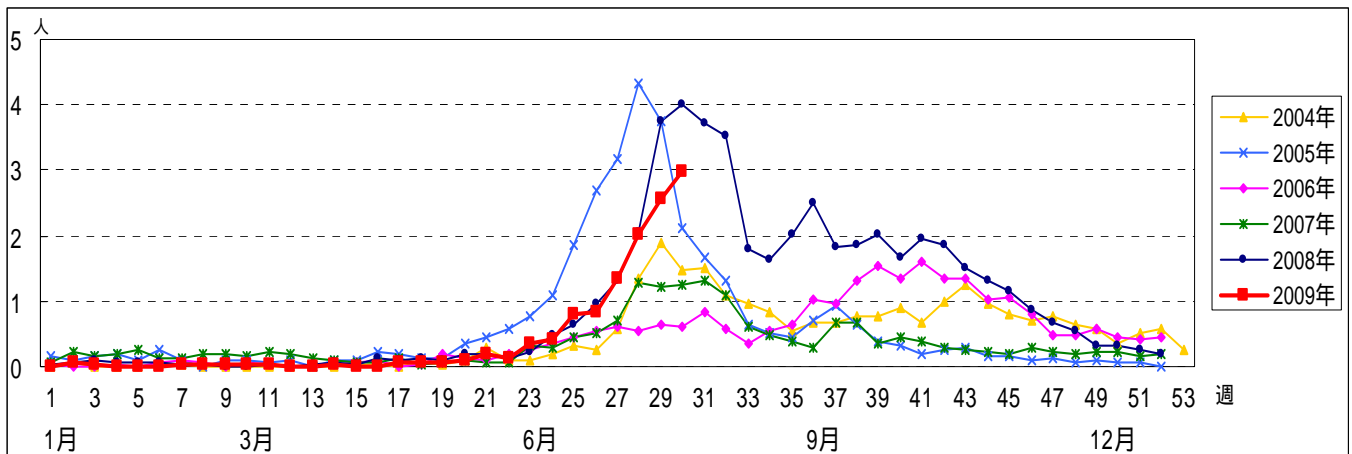
<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>

5 **風疹**: ワクチン接種歴のある成人が 1 例見られました。

定点把握の対象

- 1 **(季節性)インフルエンザ**:今シーズンは、2008 年第 49 週に流行の目安となる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 4 週に流行のピークとなりましたが、第 9 週から再び増加に転じ、第 11 週にもピークとなる二峰性になりました。第 30 週は定点あたり報告数が 0.14 となりました。報告のあったのは 12 区です。行政区別では、西区が 0.5、都筑区が 0.4 と続きます。川崎市は 0.07、神奈川県(横浜、川崎除く、以下県域)は 0.09、全国は 0.28 でした。市内における新型インフルエンザの発熱外来での全数調査が、7 月 16 日をもって中止されたために、今後季節性インフルエンザの報告数に新型インフルエンザも含まれますので、報告数の推移に更なる注意が必要です。
- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:昨年は、過去 5 年間で最も高い水準で推移していましたが、今年に入ってから例年並みの水準ですが、第 24 週の 2.81 から下り坂で、第 30 週は 1.36 と落ち着いています。行政区別では、港北区が 8.14 と高く、中区 2.33、保土ヶ谷区 1.80 と続きます。川崎市は 1.33、神奈川県(県域)は 0.77、全国は 0.87 でした。
- 3 **手足口病**: 6 月に入って増加を始め、第 30 週には 3.00 と、過去 5 年間で 2 番目に高い水準となっています。例年夏にかけて増加してくることから、今後の動向に注意が必要です。行政区別では、栄区 13.33、泉区 9.50、港南区 8.50、瀬谷区 4.75 となっています。川崎市は 2.28、神奈川県(県域)は 1.20、全国は 1.50 と、いずれも横浜市より低い値です。

定点あたりの手足口病月別報告数



- 4 **伝染性紅斑**:例年並みの水準で推移していましたが、第 13 週から増加し、第 28 週は定点あたり 1.74 と、過去 5 年間で最も高い水準でしたが、第 30 週には 0.77 と落ち着きを見せています。川崎市は 1.09 と横浜より高いのですが、神奈川県(県域)は 0.59、全国では 0.14 であり、横浜市より低い値です。
- 5 **ヘルパンギーナ**:2009 年は当初から過去 5 年間で最も低い水準で推移していましたが、第 25 週には定点あたり 0.67 と、増加の兆しが見られ、第 30 週には 3.00 でした。行政区別では、瀬谷区 8.75、緑区 8.75、港北区 5.86、泉区 5.75 と続きます。川崎市は 2.55、神奈川県(県域)は 1.66、全国は 2.28 と、いずれも横浜市よりやや低い値です。
- 6 **性感染症**:性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。6 月は、5 月に比べて全体としては横ばいです。性器クラミジア他 31 例、尖圭コンジローマが 21 例、性器ヘルペス感染症が 12 例、淋菌感染症が 17 例でした。男女とも 20 歳から 44 歳にほぼ集中して見られ、25 歳から 35 歳が特に多くなっていますが、性器ヘルペス感染症は、60 歳代と 70 歳代に各 1 例見られました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>